

# 命と地域を守る 県民医療の砦として

## 【主な医療認定・指定施設等】

- ▶ 総合周産期母子医療センター
- ▶ 小児救急医療拠点病院
- ▶ 基幹災害拠点病院
- ▶ 救命救急センター
- ▶ 地域がん診療連携拠点病院
- ▶ 地域医療支援病院
- ▶ へき地医療拠点病院
- ▶ 精神医療センター



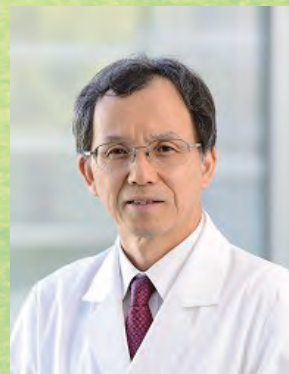
## 【企業版ふるさと納税のお願い】

### 大分県立病院応援事業

大分県立病院は、1880年の創設以来、地域医療の中核として県民の命を守り続けてきました。救命救急・がん・周産期・精神医療など、幅広い分野で高度かつ専門的な医療を提供し、県民医療の「最後の砦」として重要な役割を果たしています。

こうした医療を安定的に提供し続けるためには、専門人材の育成や先進的な医療機器の導入、施設の整備など、多くの費用が必要不可欠です。しかし、急性期医療の現場は年々財政的に厳しさを増し、病院の経営努力だけでは立ちゆかなくなりつつあります。

企業版ふるさと納税という制度を通じて、大分の医療を守る取り組みに、ぜひご参加ください。私たちの医療を未来へとつなげるために、皆様のご支援をお待ちしております。



病院長：宇都宮 徹

# 「いのちを守る医療を、未来へつなぐ。」3つのプロジェクト

## 小さな命に、大きな安心プロジェクト

大分県で唯一の総合周産期母子医療センターとして、妊娠から出産・産後まで切れ目のない医療を提供しています。また、大切なこどもたちを守る「最後の砦」として、県内各地からリスクの高い妊婦や医療的ケアが必要な新生児を受け入れています。さらに小児科では、医療的ケア児とその家族を支える体制づくりが重要となってきています。

「必死に生きようとする命を守りたい」——現場では日々小さな命と向き合っています。**小さな命の大きな未来のために、皆様の力をお貸しください。**

### 【寄附金の活用例】

- ・集中治療が必要な新生児のための環境整備
- ・医療的ケア児と家族を支える体制づくり

## 必死に生きようとする命を守りたい



2024年の当院出生児数は473人。大分県内で生まれるこどもの13人に1人が当院で誕生しています。

## 地域と医療の架け橋プロジェクト

当院は、基幹災害拠点病院として、大規模災害に備えた医療体制の整備に取り組んでいます。災害医療の備えは、地域を守る「目に見えないインフラ」です。

しかし、装備品等の整備や定期的な点検にかかる費用は、決して小さいものではありません。皆様のご支援は、災害時の医療機能の維持に繋がるとともに、「必要とされている」という大きな励みになります。そして、もしもの時には、**当院から全国各地へ支援に向かうことが、恩返しになると考えています。**

### 【寄附金の活用例】

- ・DMATやDPATの隊員養成、装備品の整備
- ・災害時の病院機能の充実

## 「地域を守りたい」という純粋な使命感



DMAT（災害派遣医療チーム）とDPAT（災害派遣精神医療チーム）を有し、熊本地震や能登半島地震で医療支援を行いました。

## 高度・専門医療支援プロジェクト

当院は、地域がん診療連携拠点病院及びがんゲノム医療連携病院に指定され、地域と連携しながら質の高いがん医療を提供しています。また、多くの診療科を有する地域医療の拠点として、すべての命に最高の医療を届ける責務を担っています。

その実現のために、当院では手術支援ロボットをはじめとする先進医療機器の導入や、専門人材の育成に力を入れており、これらの体制をさらに充実させていきたいと考えています。

一人ひとりの命に寄り添い、未来の医療を支えるために、**私たちの挑戦に、ぜひ温かいご支援をお願いいたします。**

### 【寄附金の活用例】

- ・専門性の高い医療スタッフの育成
- ・先進的な医療の実現に向けた体制整備

## 一人でも多くの命を救うために



当院では、繊細な操作でがん手術の精度を高める手術支援ロボットを導入しています。

**守りたい命があります。支えたい医療があります。ふるさと納税というかたちで、私たちに力をお貸しください。**

ご寄附に関するお問合せ

大分県企画振興部（おおいた創生推進課）

電話：097-506-2135 / Mail: a10113@pref.oita.lg.jp



事業（プロジェクト）に関するお問合せ

大分県立病院総務経営課（経営・企画班）

電話：097-546-7409 / Mail: a80100@pref.oita.lg.jp

